

2019年12月〜2020年11月に刊行された日本人作家の小説の中で、書店員自身が自分で読んで、いちばんお勧めしたいと思った作品です。

全国書店員の投票で選ばれたベスト10

全国書店員が選んだ
いちばん！
売りたい本



2021年本屋大賞

大賞

『52ヘルツの
クジラたち』
町田そのこ(中央公論新社)

2位 『お探し物は図書室まで』
青山美智子(ポプラ社)

3位 『犬がいた季節』
伊吹有喜(双葉社)

4位 『逆ソクラテス』
伊坂幸太郎(集英社)

5位 『白転しながら公転する』
山本文緒(新潮社)

6位 『八月の銀の雪』
伊与原新(新潮社)

7位 『滅びの前のシャングリラ』
凧良ゆう(中央公論新社)

8位 『オルタネート』
加藤シゲアキ(新潮社)

9位 『推し、燃ゆ』
宇佐見りん(河出書房新社)

10位 『この本を盗む者は』
深緑野分(KADOKAWA)

Supported by

NOLTY® PAGEM
ノルティ ペイジエム

手帳ブランドNOLTY / PAGEMIは本屋大賞に協賛し、応援しています。